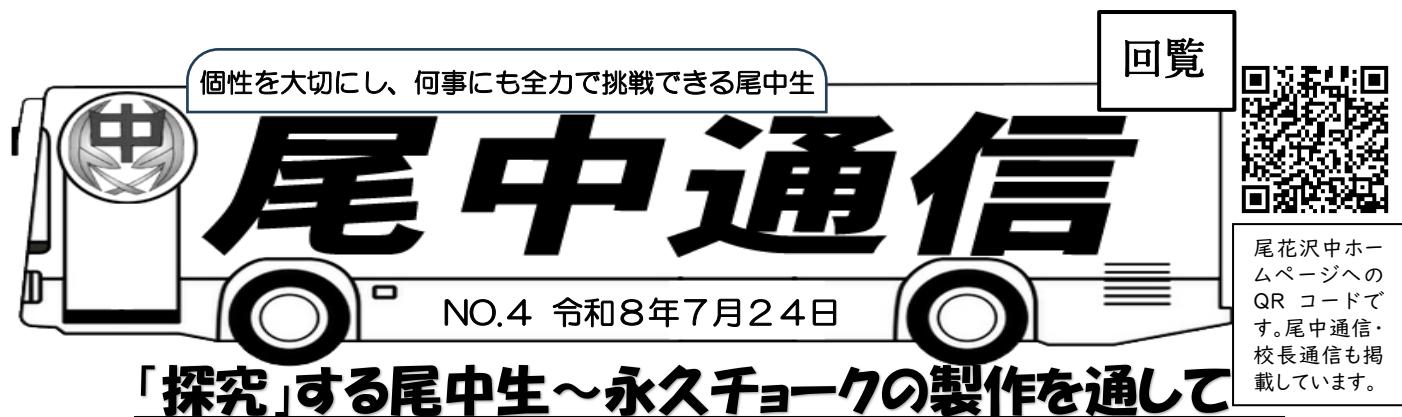


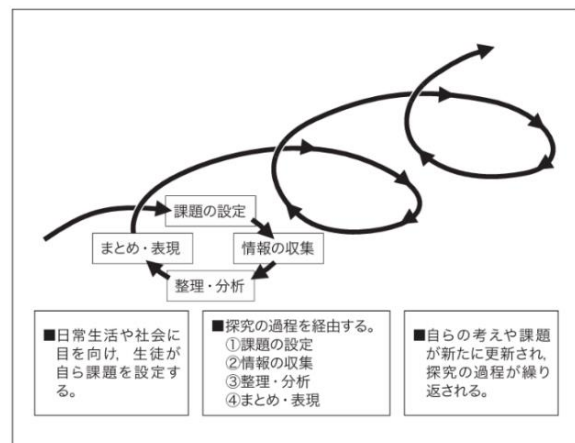


「探究」する尾中生～永久チョークの製作を通して

問 「探究的な学び」とはどんな学習ですか。

文部科学省によれば、「探究」とは「実社会・実生活との関わりの中で見出す自己の興味・関心や問題意識に基づき課題を設定し、教科等の学びを活用しながら試行錯誤し、課題解決を通じた新たな価値の創造を繰り返していく学習プロセス」と定義されています。

「探究」における生徒の姿としては、右の図に示すように、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現というプロセスをスパイラル（螺旋状）に繰り返しながら、より質の高い学びへと進んでいくことになります。



2年生のKさんは、「チョークの粉で新たにチョークをつくることができないかな？」という好奇心から、チョーク受けにたまった粉を家に持ち帰り、「永久チョーク」製作に取り組み始めました。粉を水でぬらして水分を紙で拭きとり、手で試作品①を作り上げました。しかし「すぐに折れてしまう」という課題が判明しました。

A I に尋ねて、小麦粉や片栗粉やボンドを混ぜて、落ちてても折れない試作品②を完成させました。しかし、今度は硬すぎて黒板に文字を書くことができません。このことから、チョークは絶妙な硬度と湿り気が大切であることが分かったとのことでした。

そこで、水だけで固めて、布などで根気強く湿り気を取りながら、ついに書き心地が市販のチョークと全く変わらない試作品③の製作に成功しました。

Kさんは、まだ形に納得いかず、形に改善を加えようとしています。この製作活動を通して、リサイクルに対して興味・関心が深まるとともに「ものを大切に使おう」とも思うようになったそうです。

Kさんの「探究」はまだ続きます。

自ら課題を設定（粉でチョークをつくることができるのか）し、情報を収集（A I に尋ねる）し、整理・分析（どれぐらい混ぜるのか）し、まとめ・表現（チョークを手で練り上げる）するというサイクルが、また次の課題を生み、研究の質が螺旋階段を上るように高まっていることがうかがえます。

このような学びを「オーセンティック（真正）な学び」というようです。シン尾花沢中は、「探究」する過程を大切にしたい学校でありたいと思っています。

【文責：校長 工藤雅史】



7月 学校行事から

職場体験学習 ～体験を通して生き方を探る～

7月1日（水）～3日（金）の3日間、2年生が職場体験学習を行いました。今年度は、一人一人の興味・関心を大切に、生徒が保護者と相談しながら体験先を選びました。その結果、尾花沢市内だけでなく、大石田町、村山市、東根市、新庄市、河北町、天童市、山形市の71事業所で職場体験をさせていただきました。

生徒からは、「希望する職業に就きたいという気持ちが高まった」「職業を選ぶ際に大切にしたいことが分かった」「学んだことを学校生活や進路選択に生かしたい」などの感想が寄せられました。体験を通して、多くの学びを得るとともに、一人一人が大きく成長したことがうかがえました。

生徒たちを温かく受け入れ、貴重な学びの機会を提供してくださった事業所の皆様、ありがとうございました。



上級学校訪問 ～学びの場を知り 進路への思いを深める～

7月3日（金）、3年生は、県内の大学・短期大学・専門学校を訪問しました。当日は、生徒の希望をもとに編成したグループごとにスクールバス5台で移動し、各車2校ずつ見学しました。各校では、学校の特色や学習内容について説明を受けたり、体験活動に参加したりして、それぞれの学校への理解を深めました。

生徒からは、「以前から行ってみたかった学校を訪問できて本当にうれしかった」「本当に自分に合った学校かどうかを見極めて進学先を決めたい」「なりたい職業について改めて考えることができた」「将来のために今できることをしっかり頑張りたい」などの感想が寄せられました。

生徒一人一人が自分の興味・関心や適性について見つめ直し、将来の進路について考えを深める貴重な機会となりました。



浴衣着付体験学習 ～着物が伝える日本の心～



7月9日(木)、家庭科の授業で、2年生を対象に「浴衣着付け体験・和服のよさ体験」を実施しました。小林豊子きもの学院の先生方のご協力のもと、和服と洋服の違いや、日本の伝統文化である和服のよさを学びました。代表の加藤朋子先生からは、「着物を着ると自然と背筋が伸び、心も整います。着物文化が受け継がれなくなることが心配ですが、日本のよさを忘れないでほしい。そして、尾花沢で体験した今日のことを、いつか思い出してもらえ

たらうれしいです」とのお話をいただきました。

先生のお話から、着物への深い愛情と、ふるさと尾花沢を大切に思う気持ちが伝わってきました。貴重な体験の機会をいただいた小林豊子きもの学院の先生方、心より感謝申し上げます。

暑い一日でしたが、浴衣姿の生徒たちを見ていると、涼やかな風鈴の音が聞こえてくるような、心とおひときととなりました。



合唱の日 ～伝統を引き継ぎ新しい文化へ～

福原中学校で受け継がれてきた「合唱の日」を、今年度から生徒会の重点取組として位置付けています。第1回目となる7月9日(木)の生徒集会では、2年生が「翼をください」を披露しました。約100名による学年合唱は、迫力があり、聴く人の心に響く素晴らしい歌声となりました。合唱を聴いた1・3年生からも「一体感がありよかった」「男女のハーモニーとてもよかった」などの感想が寄せられました。



今後は、3年生、1年生の順に発表を行う予定です。学年の枠を超えて歌声をつなぎ、「合唱の福原」の伝統を未来へ受け継いでいきます。



花笠踊り交流学習 ～ふるさとの魅力を再発見～

本校では、目指す生徒像「活力」の一環として、「ふるさとを大切に」「地域貢献の推進」を掲げています。7月15日(水)、家庭科の授業「かかわり合う地域と家庭」で、山形大学花笠サークル「四面楚歌」の皆さんを講師にお迎えし、「花笠踊り交流学習」を行いました。当日は、花笠踊りの歴史を学び、互いの活動や取組を紹介した後、花笠踊りを披露しました。

講師の佐藤さんからは、「小さいころから毎年踊っていると、『また花笠か』と思うこともあるかもしれません。しかし、大人になって県外に出た人が、『実は花笠ってすごい文化だったんだ』と気付くことは少なくありません。今は当たり前でも、そのあたり前は尾花沢にしかない宝物です。自分の出身地に誇りをもち、自分のやりたいことも貫いて、堂々と花笠を踊ってほしいと思います」と、尾中生への温かいメッセージをいただきました。

まもなく「尾花沢まつり」が開催されます。今回の学びを胸に、ふるさとの伝統文化に誇りをもち、地域の一員として祭りに参加しながら、尾花沢の魅力を感じてほしいと思います。



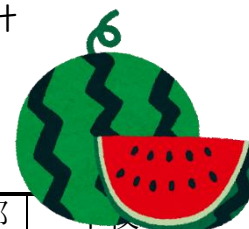
生徒の活躍の記録

◇県中総体(7月17日~20日)

- 軟式野球 1回戦 対 余目・立川合同チーム 1-11(惜敗)
- 女子バレーボール 1回戦 対 藤島中 2-0(勝利) 2回戦 対 酒田二中 0-2(惜敗)
- 柔道 女子団体 1回戦 対 山辺中(勝利) 2回戦 対 山形四中(惜敗)
- 男女個人 入賞ならず
- 陸上競技 女子共通砲丸投 第2位 東海林真優(東北大会出場)
- 男子低学年400mR 第7位 菅野諒真-伊藤颯-鈴木雅弥-佐藤彪叶

◇山形県吹奏楽コンクール最北地区予選会(7月19日) 銀賞

8月の予定



日	曜	行 事 な ど	給食	部活	(バス出発時刻)
8/1	土				
8/2	日	東北中陸上大会			
8/3	月	東北中陸上大会	—	—	—
8/4	火	東北中陸上大会	—	△	10:30
8/5	水	東北中陸上大会	—	△	10:30
8/6	木		—	—	—
8/7	金		—	△	10:30
8/8	土	閉庁			
8/9	日	閉庁			
8/10	月	閉庁	—	—	
8/11	火	(山の日) 閉庁	—	—	
8/12	水	学校集金口座振替日 閉庁	—	—	
8/13	木	閉庁	—	—	
8/14	金	閉庁	—	—	
8/15	土	閉庁			
8/16	日	閉庁			
8/17	月		—	—	—
8/18	火		—	—	—
8/19	水		—	—	—
8/20	木	2学期始業式	○	—	13:45
8/21	金	遠藤 SC 来校 ワックスがけ	○	○	16:10/17:15
8/22	土				
8/23	日				
8/24	月		○	—	15:00
8/25	火		○	○	16:00/17:15
8/26	水	はながさデー	○	—	13:40
8/27	木	尾花沢まつり			
8/28	金	尾花沢まつり			
8/29	土				
8/30	日				
8/31	月	鈴木 SC・遠藤 SC 来校	○	—	15:00